

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
2 生徒指導部	基本的な生活習慣を育成し、他人との協調性を養い自己実現を目指す。	全職員の共通指導		
		自主的に、挨拶をする・服装を正す・時間を守る、が出来るようにする。		
		マナーアップ活動を通して、校則を遵守する態度の育成		
	保護者・関係諸機関との連携を密にし、問題行動の未然防止を目指す。	保護者との連携・協力		
		中学校・警察等の関係諸機関との連携・協力		
		生徒事故の未然防止		
	安全教育の推進を図り、自己防衛意識・自己管理の育成を目指す。	登下校時の立哨指導・巡回指導の実施		
		交通安全教育の徹底		
		自転車点検の実施		
3 特別活動部	部活動の活発化	中等教育学校の生徒も含めた部活動のよりよい活動方法を模索する。		
		部活動における効率的な練習を推進し、県大会に出場する部を増やす。		
		部顧問間の連携を強化し、学校全体としての指導体制をより充実させる。		
	主体性のある生徒会活動の推進	生徒会役員が、主体性を持って生徒会活動を進められるようにする。		
		中等教育学校の生徒も含めた新しい生徒会活動のあり方を模索する。		
		生徒会役員選挙に多くの候補者が立候補するよう、生徒の意識を高揚させる。		
	学校行事の活性化	かえで祭の実行委員を増やし、生徒による企画・運営力の向上をめざす。		
		中等教育学校と高等学校が一体化したかえで祭を作り出す。		
		スポーツデイにおけるクラスの団結力を高め、協調的精神を養う。		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
4 進路指導部	適切な進路情報を提供し 進路意識の高揚を図る	進路室の整備と利用促進		
		進学要覧の活用（HRでの使用と保護者への進路情報の提供）		
		保護者面談時等を利用し、定期的な進路情報の提供		
	進路計画の作成	LHRを活用した進路指導（各学年での到達目標を設定する）		
		進路・生活実態調査を定期的に行い、生徒のその時点での状況を提供する		
		進路希望状況を適宜把握し、円滑に学年指導が進むよう情報を提供する		
	自己実現のための支援	早期に目標を見つけることが出来るように、進路ガイダンス等の充実を図る		
		模試の情報収集と結果の活用		
		学年との協力体制の確立		
5 保健部	生徒の健康・安全・健康 教育の推進に努める	健康診断は校医と相談し、合理的且つ円滑に行う		
		健康診断の結果、要治療者については早期治療を徹底する		
		日常的な保健室利用生徒について、担任・保護者との緊密な連携をはかる		
		校内の各組織と相談・連携し、喫煙・性・薬物等の講話を年1回は実施する		
		担任・教育相談室と連携を深め、心のケアを重視する		
		委員会活動の活性化を図る		
	校舎内の美化と安全に努 める	清掃時間には可能な限り先生方に監督についてもらう		
		危険箇所の点検を行ない、改善に努力する		
		避難訓練を実施する		
6 図書部	1 図書委員会の活発化	ローテーションによるカウンター業務（バーコードによる貸出と返却）		
		購入図書を選定と広報活動（「図書館報」の発行）		
		定例役員会の開催		
	2 図書館運営と図書の管 理	購入図書の登録（バーコード入力）		
		定期点検による図書の整理整頓		
		図書館設備の充実		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
7 渉外部	P T A活動の共通理解と 会員同士の親睦	P T A活動表・支部区分表の配付		
		学年・評議員の活動内容表の配付		
		かえで祭・WRへの参加協力の呼びかけ		
		広報誌の発行		
		支部会の開催		
		P T A連合会などへの参加		
8 教育情 報部	授業における IT 活用	校内研修会の実施		
		環境の整備（普通教室，視聴覚教室）		
		e-Learning（ネットワークを利用した自学自習環境）の活用		
		教科「情報」と他教科の連携		
	IT 環境を活用した校務の 効率化	IT 活用のための機器の導入と利用普及		
		校内サーバーの活用		
		教育情報ネットワークの活用促進		
		成績管理システムの改善		
	IT 及び視聴覚環境の整備	ハードウェアの整備		
		校内ネットワーク（LAN）の整備		
		ソフトウェアの整備		
		視聴覚室の整備（視聴覚機器など）		
	IT 環境の安全な運用	ネットワークの安定的な運用		
		セキュリティの向上と迅速な対応		
		個人情報保護		
		情報倫理の確立		
	IT を活用した地域や保護 者への広報活動の充実	インターネット・ブログでの学校紹介の充実		
		メールマガジンを活用した保護者への広報活動		
中等教育学校の環境整備	中等教育学校の IT 環境の整備拡充			

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
9 教育相談部	心の問題を抱えている生徒の早期発見と早期対応	欠席調べをして休みがちな生徒を把握する		
		週に1度の部会を持ち、情報交換を密にし、チーム支援の充実を図る		
		校内研修会を実施し、不登校マニュアルや相談室便りを発行する		
	学年・保護者との連携強化	相談部の中に学年担当を決め、学年会の生徒動向の情報を共有する 生徒へのアプローチについて教育相談的視点からのアドバイスをする 保護者との連携を密にする。また場合によっては医療機関等の紹介をする		
スクールカウンセラー(S C)の活用	カウンセリングを受ける生徒に対して学校生活の中で支援する カウンセリングにおいて、S Cと担任等との間の連絡調整を支援する			
10 事務部	効率的な予算の執行に努める	将来を見通した教育環境の整備		
		安全性を考慮した校舎内外の整備		
		最小費用で最大の効果		
	授業料等の口座振替不能者減少に努める	生徒を通して、引落金額の通知を配布して、保護者の周知を求める		
団体費の適正な予算執行に努める	収入・支出の内容を明確にする			
	領収関係書類を確実に添付する			
窓口業務・電話の応対等の接遇態度に心がける	窓口業務をする中で、常に不審者対策にも心掛ける			

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第1学年	個性を伸張させ、並木高校生としての自信とプライドをもてる生徒を育てる(生活指導)⇒校訓にもある「自制(自分勝手な気持ちを抑えること)・自律(自分に厳しくあること)・自尊(自分にプライドを持つこと)」の精神を身につける	教員と生徒が信頼関係を築き、生徒が学校に登校したくなる雰囲気づくりの徹底		
		遅刻カードの導入と家庭との連携を図った事後指導の徹底による遅刻の削減		
		校内や登下校時における挨拶の奨励		
		朝の立哨指導により挨拶・服装指導の徹底		
		生徒の状況を観察するため主任面談など面談の実施による問題行動の早期発見		
	学年集会・道徳などを通じて並木高校生としてプライドを持たせる			
	「総合的な学力」と、「社会力」「体力」をバランスよく身につけた生徒を育てる(学習指導)⇒日々の授業を大切にし、日々の家庭学習の習慣を身につけた生徒を育てる	週間家庭学習記録表の提出による家庭学習の習慣化		
		国数英週末課題の計画による家庭学習の習慣化		
		定期テスト前セルフスタディー TIME 実施による自学自習力の育成		
		土曜学習会の活用による授業時間の確保と学力向上		
		課外や到達度テスト実施による学力の向上を目指す		
	自分自身を理解した上で、目標に向かって努力できる生徒を育てる(進路指導)⇒自分の目標を持ち、自分の長所を理解することで、将来への夢に向かって突き進む	小論文の有効な指導計画を実施する		
		英数国の上位層を伸ばし、下位層に対するケアの充実		
		自分史や適性検査の実施による自己理解の促進		
		進路講演会等による進路意識の覚醒		
		大学訪問・校外学習等による進路意識の高揚		
(その他)充実した高校生活を送らせる	マイフューチャーの実施による社会観・職業観の育成			
	面談等を活用して生徒の適切な文理選択をサポートする			
	部活動への参加の推進			
	生徒会活動への参加の推進			
		学校行事への積極的参加を促進		
		中等教育学校と連携した教育活動に対する協力体制の確立		

評価基準 達成状況 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第2学年	学習習慣の確立・向上(学習指導) ⇒ 1年からの学習指導を継続し、授業と家庭学習の質と量を向上させるとともに、自ら学ぶ姿勢を育てる	週間家庭学習記録表の提出による家庭学習の習慣化		
		国数英週末課題の計画による家庭学習の習慣化		
		定期テスト前セルフスタディー TIME 実施による自学自習力の育成		
		土曜学集会の活用による授業時間の確保		
		課外や到達度テスト実施による学力の向上を目指す		
		英検全員受験により英語力向上を目指す		
		小論文の有効な指導計画を実施する		
	自らの進路についてのより深い研究 (進路指導) ⇒ 大学や職業についてより深く研究し生徒自らが考え選択できるようにする	進路講演会等による進路意識の覚醒		
		大学模擬講義実施による学部学科研究の促進		
		オープンキャンパス全員参加による大学研究の促進		
		マイフューチャー実施による社会観・職業観の育成		
		「志望理由書」作成指導により進路意識と目的意識を高める		
	HRや学年便りを利用しての入試システムの理解			
修学旅行の成功(全体的な指導) ⇒ 修学旅行を利用して学習意識を喚起するとともに、集団としてのルールの大切さを十分に理解させ、仲間との連帯感を持たせる	修学旅行に関連させた授業内容の実施し学習意識を喚起する			
	修学旅行事前研究を実施し自ら学ぶ姿勢と発表能力の育成			
	伊江島の人々とのふれあいを通じコミュニケーション能力の育成を図る			
	遅刻指導等により時間への意識を高める			
	服装頭髪指導の継続によりルールを遵守させる			

評価基準 達成状況 A : 十分達成できている B : 達成できている C : 概ね達成できている D : 不十分である E : できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
第3学年	学力の向上及び進路目標に応じた積極的な学習活動	1時間1時間の授業を大切にする(分かる授業の展開・チャイム始業の徹底・家庭学習の徹底を図る)			
		習熟度に応じた学習指導体制の確立			
		学力向上のための平常課外・夏季課外・冬季課外・小テスト等の実施			
		小論文指導等により, 読解力・文章表現力の養成			
	生徒自らが自分の在り方・生き方を考えながら進路選択できる進路指導の実現	個々の進路に応じた綿密な面談の実施			
		「自ら学べる生徒になる」ための進路講演会の実施			
		進路先を比較検討するための「校外進路説明会」の実施やオープンキャンパスへの参加			
		ロングホームルーム等を利用した入試システムの研究			
	基本的な生活習慣を確立し, 高校生らしい礼儀を身につける	「遅刻カード」を利用した遅刻指導の徹底			
		朝の立哨指導の実施			
		頭髪・服装指導の徹底 挨拶の奨励			
	最高学年として, 部活動や生徒会行事・学校行事への積極的な参加を促す	部活動・生徒会活動への参加の推進			
		活動を通して, リーダー性・協調性・社会性等を高めていく			
学校行事への本部役員参加率の向上					
家庭との密なる連携・協力体制の確立	家庭との連絡を密にして, 生徒の動向に気を配る				
	学校になかなか登校できない生徒に対して, 家庭と十分に連絡を取り, 教育相談部等と協力しながら指導していく				

評価基準 達成状況 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
1 4 国語科	自発的な学習習慣の定着	学習ガイダンスを重視し、予習・復習の仕方・週末課題について細かに指導する		
		シラバスにより単元目標を提示し、それに合わせた授業・評価の工夫をする		
		生徒が学習しやすいように問題演習の行い方を工夫する		
	読解指導の深化	小説・評論の読解法について解説し、実際に使えるようにする		
		古文の読解のポイントについて解説し、授業で実践する		
	記述入試対応	設問に応じた答え方ができるよう、板上添削など授業の工夫をする		
記述対策を早期に開始し、生徒の苦手意識を解消する				
教員間の意見交換を積極的に 行う場の確保	授業公開などを利用して、お互いの授業の改善を図る。			
	授業担当者間において、綿密な打ち合わせができるように意見交換の場を確保する。			
1 5 地歴公 民科	シラバスの有効利用	年間目標を提示し、生徒自らが学習計画を立てられるように手助けする。		
		さまざまな学習方法を提示し、生徒が自分あった方法を選択できるように導いていく。		
	I Tを活用した授業の実 施	I Tを活用した指導法についての研修会を実施し、実際に授業を行う。		
		有効活用できるソフトの作成。		
学力向上及び指導方法の 工夫	長期休業中及び平常の課外を充実させ、精選した小テストの実施。			
	生徒一人一人の可能性を伸ばせるような指導方法の研究。			
1 6 数学科	基礎・基本の定着と共に 応用力の養成を図る指導	生徒が考えればわかる、やれば解けると思えるように、授業展開や説明方法を工夫する。		
		週末課題の提出を徹底させ、繰り返し復習することで、基礎・基本を全員に定着させる。		
		難易度別の課外授業や、個別指導により、発展的内容に挑戦しようとする生徒を育てる。		
	学習意欲を喚起する指導	家庭学習における予習の習慣化と、教科書を中心とした学習の重要性を認識させる。		
		上位者の掲示や適切な出題難易度により、到達度テストに向けての自主的な学習を促す。		
		定期テストや模擬試験に向けて各自の目標を設定させ、積極的に取り組ませる。		
個に応じた指導	習熟度別クラス編成により、生徒の理解度に応じた授業展開や問題演習を行う。			
	普段の授業やテスト前などに、生徒が質問しやすい雰囲気や環境を整える。			
	希望者への早朝・放課後・長期休業中の課外授業を充実させ、成績不振者への補習も行う。			

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
17 理科	生徒が自ら学習するような指導	定期テストや模擬試験に向けて目標を設定し、積極的に取り組む姿勢を育成する。		
		学習プリントや副教材により家庭学習における予習の習慣化を図る。		
		シラバスを基に学習計画をつくり、生徒が自ら予習・復習するような指導に努める。		
	学力向上	実験化や観察を多く取り入れ、分かる授業の工夫と展開を心がける。		
		担当者間で意見交換を行い、互いの授業の改善を図る。		
		生徒の実態に即した課題を出し、家庭学習の習慣化を図れるようにする。		
	個に応じた指導	授業や定期テスト前などに、生徒が質問しやすい雰囲気や環境を整える。		
		小テストや学習プリントなどにより到達度の確認を図る。		
		習熟度別指導など理解度の違いに応じた個別指導を行う。		
		希望者には放課後・長期休業中の課外授業を充実させ、成績不振者への補習も行う。		
18 保健体育科	体力の保持増進	授業及び体力テスト等への積極的参加姿勢の育成		
		体づくり運動、特に筋力向上プログラムの効果的な実践		
		12分間走の充実		
	運動技能知識の理解及び修得	技能知識の理解		
		運動技能の修得		
		ルールの理解		
	スポーツマンシップの育成	規律ある行動		
		あいさつの励行		
		マナー、ルールの遵守		
	保健学習の充実	現代社会と健康の理解		
		生涯を通じる健康の理解		
		社会生活と健康の理解		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
19 芸術科	音楽	芸術的表現技術の向上	基礎的技能を身につけ、自己の考えを練り思考する過程を重視する		
			様々な表現手段を提示し、各自の表現に合った技術を習得させる		
		鑑賞教育の充実をはかる	音楽の諸要素による変化や多様な表現に関心を持ちイメージできるようにする		
		心の教育を目指す	幅広く音楽文化の表現を理解し尊重する心情を育てる		
			美しいものへの感動を通して自己を高める		
	美術	芸術的表現技術の向上	自己の考えを練り、思考する過程を重視する		
			様々な表現手段を示し、各自の表現に合った技術を習得させる		
		鑑賞教育の充実をはかる	様々な分野の鑑賞資料を提示する		
			インターネット等を活用し、主体的に鑑賞にかかわるよう指導する		
			文化の理解から、国際理解人間理解へと発展させる		
心の教育を目指す		表現を通じて、自己の内面との対峙を目指す			
	美しいものへの感動を通して自己を高める				
20 英語科	将来につながる 基礎学力の定着と 個に応じた指導	生徒に予習→授業→復習の流れを確立させ、教科書を中心とした基礎・基本の徹底を図る。			
		小テストを実施し、結果を分析し、理解不十分であった生徒への対応を行う。			
		生徒のレベル毎に応じた課題の提示、進捗状況の確認、助言を行い、継続させる。			
	自律的な学習を 身につけさせる 指導の工夫	LL教室を活用し、生徒の興味を異文化・異言語に広げる授業を行う。			
		IT、書籍、新聞、TVの語学講座等各種メディアを活用した生徒の自主的な英語学習を奨励する。			
		各種英語検定試験、ALTとの交流、教師への質問を積極的に促し生徒が自ら学ぶ姿勢を養成する。			
	教員間の意見交換を 積極的に行う場の確保	よりよい教授法を求めて、意見交換を行い、連絡を密にして、お互いの授業の改善を図る。			
		外部の研修会へ積極的に参加し、校内での報告会を行い、情報の共有に努める。			
		各学年の取組みを報告書にまとめ全体での意見交換の場を設けてよりよい方法を模索する。			

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
21 家庭科	生徒の学習意欲を喚起する学習指導	生徒の興味・関心に答えるとともに、知的好奇心を喚起する学習内容を工夫する		
		実験や実習を効果的に行い、体験的に学べるようにする		
		グループ活動を取り入れ、自主性や協調性を伸ばすとともに、楽しい授業の実施を工夫する		
	科学的な理解と技術の習得	生活を科学的にとらえる授業を展開する		
		効果的な実習を行い、基本的な技術を習得する		
		資料集や学習ノートを活用し、学習内容の定着を図る		
	生活の場での実践力の育成	ホームプロジェクトを実施し、課題をみつけ改善できる実践力を身に着ける		
		家庭クラブ活動や地域の活動などの参加を促し、学んだことを生かす態度を育てる		
		生活者として、深い洞察とより良く生活を改善していこうとする視点を育む授業を展開する		
22 情報科	IT活用及びコミュニケーション能力の育成	実習の中で基本的なビジネス用ソフトウェアを利用する		
		情報の検索、加工、発信という基本的なIT活用プロセスを扱う		
		グループワークや他とのコミュニケーションを重視した実習を行う		
		基本的な用語や概念については、試験を実施することによって定着させる		
	情報倫理の育成	知的財産権について、いろいろな場面で扱う		
		情報倫理について、自分で判断できるように指導する		
		人と人との関係性を重視した指導を行う		
	他教科や中等教育学校と	進路決定のプロセスにITを活用できるようにする		
		学校行事とリンクした実習を取り入れる		
他教科や中等教育学校との連携をいろいろな場面で試みる				

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	学年	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
総合的な学習の時間	1年	道徳の授業活動を通し、様々な道徳性を養うことを目的とする。また、計画的、発展的な指導によって道徳的価値及び人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する。	テーマを設定し、学年集会形式によって学年主任をはじめとして学年全体による指導を通じて道徳的価値観を身につけさせる。		
			HR単位において担任、副担の指導の下で道徳の授業活動を通し、様々な道徳性を養い、道徳的実践力を育成する。		
			社会人による職業講話（マイフューチャーセミナー）を設定し、良き社会人を目指させる。		
			校外学習等を計画し、自己を見つめ将来に対する展望と価値観を育成する。		
	2年	「進路学」及び「沖縄学」 ①大学や職業についてより深く研究し、生徒自らが自分の在り方・生き方を考え、目標を見据ながら進路選択できる力を育む。 ②沖縄修学旅行の事前事後指導を利用してあらゆる角度から学習意識を喚起する。	進路講演会等により、自分の学習状況や将来の計画について考えを深めさせる。		
			大学模擬講座等を通して、自分の進路選択について考えを深めさせる。		
			キャンパス見学会等に参加することにより、自ら情報を収集・分析し計画を立てて行動する力を育て、併せて将来の進路について考えを深めさせる。		
			小論文指導を通して自らの進路について深く考えさせる。		
			色々な教科との協力により沖縄についての興味関心を高める。		
			各自に研究テーマを決めさせ、情報の授業と協力しながら、クラス発表・学年での全体発表を行わせる。 修学旅行後に記録集を作成させ、「沖縄学」の総括とする。		
	3年	「知を総合化し応用する」 ①自分の進路や職業について深く考えさせ、生き甲斐のある人生を実現しようとする意欲を促す。 ②現代社会についての多面的な学習を通して、生徒に力(社会力)をつけていく。	興味関心を発展させた教科(科目)研究を通して、個人の知識を伸ばしたり、思考力を鍛え上級学校に対応できるように育成する。		
			校外進路説明会を実施。志望校を比較・検討することによって、進路意識の高揚を図るとともに、より現実的な志望校決定の機会とする。		
進路講演会を計画。文化祭終了・部活動引退の時期(6月中旬)に、「高校生から受験生へ」の意識付けとしての講演会を行う。					
小論文指導の実施。計画的に小論文の書き方を指導する事により、物事に対しての自分の考えを整理し、論述する事ができるようにする。					

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない